

Kadokawa Comics Dragon Jr.
Ayu Tsukimiya
Kanon
Five girls are waiting in the town covered with the snow. While concealing a true wish on the other side of the smile... . The story of a very wonderful miracle though this is small.
ホントの想いは笑顔の向こう側に 2
COMIC: 霜月絹鯊
SHIMOTSUKI KINUSA
ORIGINAL: Key
Kanon
カノン



Kanon

Five girls are waiting in the town covered with the snow. While concealing a true wish on the other side of the smile... . The story of a very wonderful miracle though this is small.

ホントの想いは笑顔の向こう側に ②

COMIC: 霜月絹鯊
SHIMOTSUKI KINUSA
ORIGINAL: Key


Kanon
COMIC: 霜月絹鯊
SHIMOTSUKI KINUSA
ホントの想いは笑顔の向こう側に 2
ORIGINAL: Key
Makoto Sawatari
Kanon
カノン

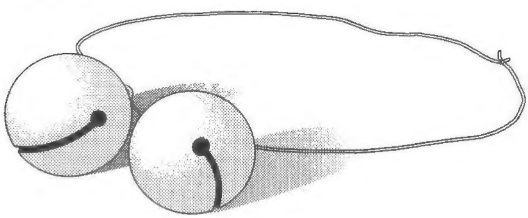
Kanon 2

Five ... ing in the town covered with the snow. While concealing a true wish on the other side o... The story of a very wonderful miracle though this is small.



C O N T E N T S

真琴には
何を引き替え
にしても
叶えたい
願いがある



Chapter 3 [沢渡真琴]



Chapter 3 [沢渡真琴]


奇跡の力?
そう
私たち特別な狐だけに使える
どんな願いも叶える事ができる力よ
でもね
この力を使うには条件があってね
……条件?
とてもとても大切なものを失ってしまうの
大切なもの?
自分の過去と
命よ



でもね
もし
それでも
叶えたいと
思う願いが
できたら
その時は……
だんっ
だんっ
まことぉーーッ!!!
ばんっ
真琴ッ
ん？


俺のノートに落描きしたの
お前だろ!!
どーすんだこれ!!
真琴知らないもーん
嘘つけぇ!!
お前以外にこんなイタズラするやつがいるかーーッツ
祐一が自分で描いたんじゃないのー?
ぷくすー
あーやだやだ
ぴし…
おまえはっ!!
ひゅっ
ごんっ
あ
痛っ
ーーっ……



何すんのよーーーッ
ゴッ
がふぁ
……つーかさ
あー いたかった
本当に なんで お前は 俺の事を そう 目の敵にするんだよ
だって祐一 むかつくんだもん
カオ見てると むかーってくるの。
きっぱり。
……待て なんだ その理由
だもんじゃねえよ
自分の胸に手を当てて聞いてみたら?
覚えがないから聞いてるんだろ!?
うが〜〜〜っ
真琴だって覚えがないもん!!
そう
覚えてない
がるるるるるるるるる


真琴には
過去の記憶がない
いわゆる
記憶喪失ってやつで
2つの事を除いて
何も覚えていない
1つは
名前
『沢渡 真琴』
そして
もう1つは
この男
祐一が
許せない
という事
なんだよ
思い返したら
いらいらしてきた
ああ?
あらあら


2人とも
だめよ？ケンカは
う
秋子さん
ぴ
たっ
ね？
この人は秋子さん
この水瀬家でいちばんえらい人
真琴をこの家に置いてくれる事を1秒で了承してくれた優しい人
はぁい……
秋子さんには名雪っていう娘がいる
わたしこれだけ！
それと……
にゃ
この猫のぴろ
すり…
以上が水瀬家全員


ちなみに
祐一は居候らしい
なんだよ……
ふっ
祐一って居候のくせに図々しいなって
お前が言うな!?
ほんと仲良しねえ…
祐一が憎い
き〜っ
許せない
それだけが
真琴の道しるべ
だから
真琴は…
ぱしゃ


全力で祐一を攻撃する!!
ぐ
と言っても 祐一は強敵だ
ぶく…
毎晩襲撃しても いつも返り討ちに あってしまう
がーっ
おどかそうとしたら逆におどかされた。
こんなもん入れんなー
ネズミ花火投げこんだら投げ返された。
etc
etc…
これは何か新しい策を考えないと…
う〜ん
う〜ん
……
う〜ん
う〜ん
でも
にやり


真琴はどうして
こんなにも祐一を許せないって思うんだろう
このまま
祐一の側にいれば
わかるのかな……
にゃ
どう思う？
ねぇ
ぴろ……


ちらっ
真琴っ
入るぞーっ
おっ
吉。
ぴろも一緒だったのか
ようしっ
お兄さんも仲間に入れてくれ！
きっ…
にこやか～



きゃああああああああーーッッ
わ
バカ お前
物投げん
げふっ
ごん
……痛い
バタバタバタ…
バタン
へたっ
し……
信じらんない……
何 あの非常識……
ありえない
許せない
許せない
許せない
許さない!!


今日こそトドメを刺してやる!!
………
何してんだ真琴
気にしないでスキを狙ってるだけだから
………
はー……
別にそこまで怒る事ないだろ
ただの可愛いお茶目なジョークじゃんか
お茶目で済まされるわけないでしょー!!
あーハイハイ謝る謝る
ゴーメーンーネー
しっしっ
ぴっきーん
誠意がない!!!
ガッ
あだだだだごめんなさいごめんなさい


あー……
歯型ついたぞ
コレ……
祐一の自業自得でしょー
だからってなぁ……
普通ここまでやるか？
大体お前はなぁ
ふー
飛びかかるは噛みつくは
動物じゃあるまいしさぁ
動物……
トクベツナ
キツネ――…
……もん……
へ？



ちがうもん……
真琴は
沢渡真琴っていう
人間の女の子だもん……！
動物なんかじゃないもん
まこ……
と……？


くる、
あ
おい 真琴ーー……
真琴は 動物なんか じゃない
ぱた ぱた ぱた…
ちゃんとした 人間の女の子 なんだから
人間のーー
真琴ぉー
真琴ー 真琴ー
まーこーとー ちゃーーん
なー 真琴ー


いい加減機嫌直せって
まだ怒ってるのかよ？
うるさいうるさい!!
ついてくるなっ
――……
……なぁ
ごめんって
仲直りしようぜ
……………
……なんでも？
なんでも買ってやるからさ
おう！



じゃあ ほんとに なんでも 買ってもらうんだから！
まだ
怒ってるんだから
いいぞ なんでも 言え
そんな事 言ってぇ……
ちりん…


ちりん
……なあ お前 俺に気を遣った…………とかじゃないよな
ちりん
ちりん
何がーっ？
真琴 これが欲しかっただけよ
ちりん
なんか そうしてると 動――……
っとと
ぷっ
ん？ 何？


――…いや
ぽふ
真琴は可愛いなって言ったんだ
なで、
………
よしよし
……あ
ドキ
なんだろ
なんだか


懐かしい感じがした……
あのな おれ 好きな子ができたんだ
ちりん
すきなこ？
沢渡真琴って言って 同じ学校の子なんだけど
大きくなったら結婚したいなー なんてな
いしし
ゆーいちの？
あ 結婚っていうのはな 大人になるとできるんだ ずっとずっと一緒にいられるんだぞ
なで…
いっしょ？


「けっこん」すると
ずっと ゆーいちと いっしょにいられるの？
じゃあ おれ もう 行くけど
……え？
元気でな
どうして？
じゃあな
まって
やだよ
おいていかないで――……



なんだろ……
何故だか
わからない
けど
予感がする
終わりの
予感……
ガチャ
ぱたん
ごそ
ごそ
もそ
……ん……?
ギクッ
え!?
ま
真琴!?
何してんだ!?
ななな
……真琴も
ここで寝る
は!?



お前何言ってん……
……!
くる
……
好きにしろ
ほ…


……
……祐一
まだ起きてる……?
んー?
……あのね
お願いがあるんだけど…
なんだよ
もしもこの先…
どんな事があっても
真琴の側にいてくれる?


……真琴？
……
ああ
側にいてやるよ
約束だ
予感は現実になるよ



指がうまく使えない
文字が読めない
上手に歩けない
上手に話す事もできなくなる
でも
祐一が側にいてくれる
だからいい


それだけでいい……
ちりん
ちりん
なぁ真琴
何かしたい事あるか……?
なんでもいいから何か言ってくれよ
真琴……
真琴のしたい事…
……けっこん……
はっ
え……



祐一と……
けっこん……
したい……
祐一と結婚したい
すぅ
それが
コト…
真琴のいちばんの……
あのね祐一
真琴は
もう一度祐一に会いたかった


祐一の側にいたい
ずっとずっと一緒にいたい
そのためなら真琴なんだってするよ
たとえどんなに
愚かな事でも


でも
もう終わり
消える
真琴が消える
それは最初から決まっていた事
わかっていた事
だけど
いやだ


まだ終わりたくない
このまま消えたくない
だってまだ
真琴のいちばんの願いが
いちばん大切な願いを残したまま
消えたくないよ
いやだよいやだ
助けて祐一
祐一祐一
祐一――!!


真琴!
起きろ!!
言っただろ 側にいるって
約束したんだからな
意地でも側にいてやるんだからな!
祐一……?
これしか用意できなかったけど……
結婚しよう 真琴



俺
相沢祐一は
けっこん……
祐一と
けっこん……
沢渡真琴と
ずっと一緒にいる
事を誓います――
……
できた……


これで祐一とずっと
一緒にいられる……
ねえ祐一
真琴は



真琴……
過去も命も捨てて
バカな狐だったかもしれない
でもね
祐一とけっこんできたから
きっと
世界でいちばん幸せな女の子だった


祐一
大好き
ずっと
ずーっと
大好き


美汐さん。
ストーリーの展開上出せませんでした。

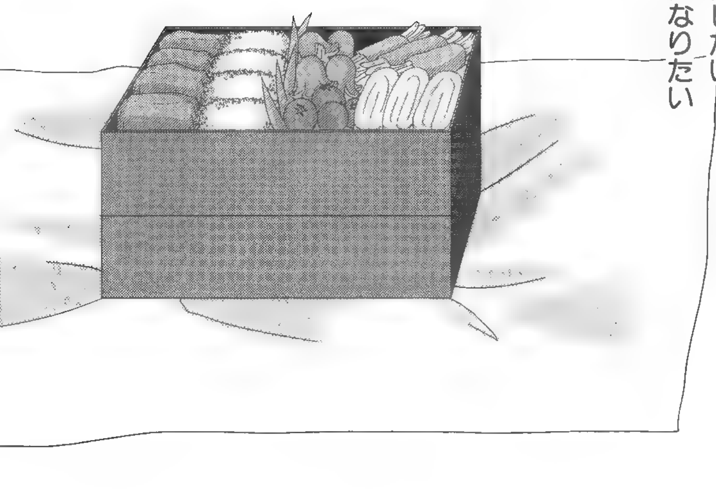

Mai & Sayuri.
この2人のこの格好が
むっちゃ好きです。

闇の中にいる間は
見えなかった
気付けなかった

光の中に立って
初めてわかった
見つける事ができた

自分の気持ち
本当の願い

幸せにしたい
幸せになりたい



Chapter 4 [川澄 雅]

Chapter 4 ［川澄 舞］





幸せにするには
どうしたらいいんだろう
お
いた いた
よーっす 2人共
ひょこっ
いらっしゃい 祐一さん
おーっ
今日も美味そーーっ
あはは──っ ありがとうございます
さ どうぞ──
お──っ
これは
いつもの お昼の光景



佐祐理は大好きな親友で
祐一の事も嫌いじゃないから
私は3人でいる この時間がとても…… 好き
もぐ
でも私は不器用なので
それを上手に伝える事ができない
舞 美味しい？
伝えたい事があるのに
良かった


どうしたらいいのか
わからない
ハイ？
えっ…と
もう一回言ってくれ
……
……私は……
幸せに
……なりたい
それは
つまり
え…と
私の事
幸せにしてね
っていう
俺への
プロポ――
ずっ
ずびしっ
そうじゃない


……佐祐理の事
佐祐理さん？
…………
私は……
ずっと1人だったけど……佐祐理と祐一のおかげで
1人じゃなくなったから………
――……
ずっと……長い間闇の中を1人でいた私に


「幸せ」を教えてくれたから
だから今度は 私が佐祐理を幸せにしたい
…………俺は？
……別に
なんだよ それ ひでーなぁ
心配してないから


何を……って聞くまでもないか
こく
……でも佐祐理さんの事は心配なんだな
佐祐理は悲しい過去があるから
以前聞いた
悲しい昔話……
佐祐理はねひどい姉だったの


厳しくする事が
正しいって考えを
弟に押し付けてたの
……
あの子が死んでから
それが間違いだって
気付いて
本当に
佐祐理は
グズだよね
あの日の
佐祐理の笑顔が
忘れられない
あー…
俺も
聞いた
あんまりにも
あっさり
言うから
実感
なかったけど
……………
だから
心配
か?
……
そっか
……私は


幸せになりたい
祐一と佐祐理と一緒に
1人だけじゃダメだから
……うん
俺は幸せだぞ 舞と佐祐理さんがいるからな
……うん
こく
…
似た者同士だな俺ら
ついでに言うと


お前と佐祐理さんも十分似た者同士だと思うけど
え……
佐祐理さんの過去を聞いた時俺なりに励まそうとしたんだけど
そしたらなんて言ったと思う？
？
ぷっ
お前と同じ事
え……


お前と会って幸せを教えてもらったってさ
……私は何もしていない
そう思ってるのはお前だけってな
お前さ
佐祐理さんと知り合ったキッカケって
野良犬だってな
自分の手食わせてたって
……犬さんお腹空いてて他に何もなかったから……


手じゃなくて
あの日迷う事なく
良かったら佐祐理のお弁当食べさせてあげて…？
自分のお弁当を差し出してくれたのが佐祐理
何もないからって自分の手を迷う事なく差し出すところが舞なんだよな
すっごい不器用だけどお前の優しいところ
その優しさに佐祐理さんも救われたってさ
その事にお互い気付いてないんだから
ホント似てるよ2人共


……祐一
ん?
……私は どうしたらいいと思う?
そんなの簡単だ
気持ちは一緒なんだ 後は言うだけでいい
言葉は舞が考えろ 背中は押してやる


行ってこい！
祐一の言葉が
本当なら
私達は少しだけ
遠回りをしていたのかもしれない
けど
気付いたから
幸せにするには



わ 走ってきたの？ もしかして佐祐理の事捜してた？
……うん
教室で待っててくれれば良かったのに
伝えたい事があったから……
うん？
幸せになるには
佐祐理……──……
そのままを
伝えればいい


一緒に幸せになろう
人は


人を幸せに
する事で
幸せになれるのだから

あるところに
とても仲の良い
姉妹がおりました

姉は妹が　とても
大好きだったので

しかし妹は
とても重い病気で

その事が
悲しくて悲しくて
受け入れられなくて

次の誕生日まで
生きる事はできないと
言われました

逃げ出してしまいました





妹が死ぬという
事だけではなく
妹の存在
そのものから

Chapter 5 [美坂 栞]


毎日
お昼に
ちょっとだけ
こっそりと
学校を訪れる
栞!
それが
最近の日課
祐一さん
よっ
今日も
来たのか
こんにちは
本当は
お医者さんに
怒られちゃうから
家にいないと
いけないんだけど
でも……


香里――っ
これからメシか――っ？
あ
――……
お姉ちゃん……
なんだよあいつ……？
……聞こえなかったんじゃないですか？
いーやあれは絶対聞こえてたっこっち見たしなっ
かんじわるー
大好きなお姉ちゃんと口を利かなくなって


どれくらいだろう……
また今日も
だめだったなあ……
もうすぐ私の――
……
栞ちゃんっ
びくぅっ
きゃあっっ
お
驚かせちゃった…?
あわわ
いえ……


ごめんね
久しぶりに見かけたから嬉しくてつい……
うぐぅ…
いえ 私が ぼんやりしてただけですから……
こんにちは あゆさん
あゆさんは
最近 知り合つた なんとなく不思議な感じのする女の子です
あ おわびに これ たい焼き 一緒に 食べない？


はい
……え
あと一週間で
栞ちゃんの誕生日!?
はい
わーっ
じゃあ ボク プレゼントするよ!
何か欲しい物ある?
いいですよ 気持ちだけで
じゃあ 何かしたい事とかっ
ボク手伝うよっ
いいんです
私 誕生日過ぎたら
遠くに行かないといけないから……


……
だったら
尚更だよう
後悔してからじゃ
遅いんだよう
諦めたら
だめだよ!
あゆさん……
時間がないなら
時間があるうちに
やりたい事
できる事
しようよ
ボクも諦めない
絶対 とびっきりの
プレゼント渡すから
だから
諦めないで
ね?
——……はい
私の


したい事は――…
お―――
似合うな制服
そう…ですか？
……入学式以来です
ははは
どおりで真新しいと思った
……私も
ここの生徒ですから
この


一週間だけは
普通の女の子でいたい
学校に通って
友達に会って
授業を受けて
お昼は学食で食べて
そんなこと言う人きらいです。
お子様～♪
そんな
普通の日々を――……
……美坂さん？


大丈夫？辛いなら保健室行きなさい
無理してはダメよ ね？
そして
――……はい
許されるなら――…
保健室
かたん
シャ
………
……やめてよ……


なんで今更学校なんて来るのよ
追いかけてこないでよ
辛いのよあんた見てるの
お姉ちゃん……？
どうせいなくなっちゃうくせに……！
私がどんな想いであんたの事っ……
夢かなぁ
これ……
お姉ちゃん……
やっと……話してくれた…ね
ぴくっ
しお……
でも
あのね私ね……


お姉ちゃんと同じ学校に通うの
夢でもいい
夢だったんだぁ……
嬉しいな……
お姉ちゃんと同じ学校に通う事
……
それが私の夢
大好きな
……っ……
お姉ちゃんと一緒に


……結局
放課後まで休んじゃったな……
遅いっ
びくっ
きゃっ!?
え……
帰るわよ栞
お姉ちゃん……?


ぐい
ほらっ
なんで……？
それと 明日から 朝 一緒に行くわよ
どうして……？
どうしてって……
あたり前でしょ？
私達 姉妹なんだから



私の夢は
お姉ちゃんと同じ学校へ通う事
一緒に通って
一緒にお昼を食べて
一緒に帰って
まるで
普通の姉妹のように過ごせたら
それだけで
幸せ……
……
泣いてる……


お姉ちゃんが泣いてる
私を呼んで泣いてる
お姉ちゃん
私ね
私ね
本当はね もっと
お姉ちゃんと一緒に
生きていたいよ…
〝栞ちゃん〟


〃プレゼント届けに来たよ〃
あゆさん？
私ね
諦めてたの
生きる事


でも
だめだった
お姉ちゃんと
一緒にいたいって
思ったら
死にたくない
生きていたいって
そう思って
………
そしたら
……
天使が奇跡を
起こして
くれた
……って
言ったら
お姉ちゃん
笑う？
笑わないわよ
栞は
頑張ったもの
それくらいの
ごほうび
もらえて
あたり前
あたり前って

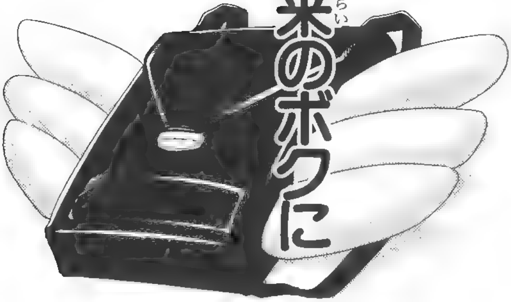

……そのおかげで私も
私の夢は
栞を失わずに済んだしね
——と
お姉ちゃんと一緒にいる事
あ
言い忘れてたわ
栞
誕生日おめでとう
ずっとずっと
一緒にいる事

7年前
大好きだった
男の子にもらった
3つの願い事

1つ目と2つ目は
その時 叶えて
もらったから

最後の1つは

未来のボクに



Final Chapter ［月宮あゆ］


Final Chapter [月宮あゆ]


見つけなきゃ
見つけなきゃ
大切な
大切なボクの探し物
どわあッツ
ずしゃあっ


ご
ごめんね祐一君
大丈夫……？
………
大丈夫に見えるか？
……見えない
そうかそうか
それならさっさと
退け
……はい
……まったく
祐一君は
ぱん
ぱん


昔
子どもの頃 毎日のように 一緒に遊んだ
大切な幼馴染みで
俺を見つけると突撃してくるの
いい加減なんとかならないか お前
うぐぅ…
だって祐一君見つけるとつい……
嬉しくて……
ボクの一番大好きな男の子
ついで攻撃だ
なんの真似だ うぐぅ星人
ボク 宇宙人じゃないようっ!!!
コラコラ語尾にうぐぅを忘れてるぞ
うぐぅ
うぐぅ
はっはっはっは 上手いぞー うぐぅ
うぐぅ……


もーっ
祐一君
ボクの事いじめて遊んでるよね!?
楽しいのそれ!?
うん めっちゃ楽しい☆
!!
もういいよ もう怒った! 祐一君なんて知らないよ!
ぷーい
ああ
んじゃコレいらないか
俺1人で食って良いんだな?
何が……
!!!
たい焼き!!
せーっかく あゆと一緒に食おうと思って買ってきたのになー
食べる!!
ありがとう 祐一君 大好きっ
お前 いくら何でも単純すぎないか
わあいっ


お前本当にたい焼き好きだよなぁ
まあ いいけど
あんぐ
だってたい焼きには祐一君との思い出が詰まってる
うんっ
大好きっ
毎日2人で一緒に食べたたい焼き
うんっ うまいっ
やっぱりたい焼きは出来立てが一番だよなっ
なっ
あゆあゆ!
そう言って笑った祐一君は
まるで——
たい焼きの王子様……
お前 何言ってるんだ……
王子って
実際は こんな意地悪だけどっ



そう言えば 見つかったのか？ お前の探し物
！
そう
ボクには 探している物がある
ううん まだなんだ
それがなんなのか どこでなくしたのか
何故か全て思い出せないけど
でも 絶対に 見つけなくちゃ いけないって
それだけは わかる
きっと
とても とても
大切な物のはず だから——…
これ やるよ あゆ


わ
かわいいー…
ボクがもらっていいの？
俺が持ってても仕方ないしなっ
欲しけりゃやるよ
い……いるか？
ツーン。
うんっ ありがとう祐一君！
嬉しい！ 大事にするねっ
デレ。
ちなみにそいつには特別な力があってな
なんと願い事を3つまで叶えてくれるんだっ
え？
ただしっ



叶えるのは俺なので出来る範囲で頼む
ちなみにお金はありません。
……
……
じゃあ… 1つ目いい？
おっ♪
さっそくか！ なんだよ言ってみろっ
ボクの事忘れないでください



冬休みが終わって
自分の街へ帰った後も
たまにでいいので
ボクの事
思い出してください
それが
ボクの1つ目の
願いです
……
ぬう…
………
あほかっ
?
当たり前だろっ
!
その言葉通り


7年ぶりに再会した祐一君は
……あゆ？
ボクの事を覚えていてくれた
お前あゆか！
それが
どんなに嬉しかったか
祐一君は
知らないんだろうなぁ…
よっ…と
ふぅ
今日の放課後の予定は
どうしようかな
今日は どこ探そうかなぁ
でも


どうして思い出せないのかな
えーと 商店街寄って たい焼き買って――…
あ 祐一君に会えると いいなー
で 一緒にたい焼き食べてー
……っと
ぴたっ
あれは 祐一君からもらった 願いを叶えてくれる――… なんだっけ?
まあ
見つかれば わかるよね
くるっ
いけない いけない 忘れるところだった! 大好きな学校に さよならのあいさつっ
今日も1日 ありがとうっ また 明日ねっ
ばいばいっ


あれ
あゆ？
きゃっほう
運命だーーーっ
どーーん！
あでっ
お前 この間 言った事 もう 忘れてるだろ
珍しいね 祐一君！ こっちの方で 会うなんて
あー…
ちょっと 頼まれ事してな
お前は？
ボクは学校 帰りだよー
へ？
えへへ
祐一君と 会えるかなって 考えてたからね
こんな学校の すぐ近くで 会えるなんて 嬉しいよ！


あゆの学校 この近くなのか？
うんっ そうだよー
むー
？ 何？
んー いや……
この辺りに 俺の行ってるとこ 以外に 学校なんて あったけなーと…
あるよー？ 祐一君 7年ぶりだし 忘れてるだけじゃない？
祐一君 忘れっぽいし
ズバ
う それは否定 出来ん……
…… ん〜〜〜…？
でもなぁ なーんか …… なーーんか 引っかかるん だよなぁ…？
えー？


もー
変な祐一君だなぁ……
それなら
すぐそこだしちょっと行ってみる?
案内するよっ
え?あ
ああ……
パキッ
……なあ
本当にこの先に学校なんてあるのか?
んー?あるよ?
……俺には


そうは思えないんだけど
こんな山の中
周り木ばっかりだし すぐっつってから もう30分は……
あるってば!
ボクの学校…… 今日だって
さっきまで そこに いたんだから……
あゆ……?
なのに どうして さっきから
学校の姿が思い出せないんだろう
そう…… きっと この先 そこを 抜ければ——……
ザザッ





『……くん』
『祐一君』
『祐一君
あのね
2つ目の
願い事……』
ボク
一度で
良いから
祐一君と同じ
学校に行きたい
学校ぉ？
ムリ……かな
ん—…
そうだなあ
そうだ


ここ！この場所！
俺たちがいつも遊んでるここが今から俺たちの学校だ！
テストも校則もない勉強もしなくていい
休みたい時は休んで来たい時に来ればいい！
『2人だけの学校だ!!』
あれ……？ここって確か……
でかい木なかったっけ……ってなんだ？
俺……この場所知ってるのか？



なぁ
あゆ……
はー…
———…鞄
そうだ
ボク
今日 学校で
ちゃんと授業
受けた……！
だから
教科書
とか
お
おい
あゆ…
ほら
ちゃんと
カチャ
かぱ
入って———…
……ない



学校なんて
最初からなかった…？
大丈夫か？
あゆ
あ……
ピクン
それじゃあ
ボクが過ごした日々は……
あ……
……あ……
ない
ボクには何もない
ボクそのものが
ない
……違う


どこにもない
ボク ここにいるもん!!
最後ノ1ツハ
未来ノ自分ニ……
はっ
探し物……
……そうだ……
え……
あゆ!?
今のボクに
唯一 与えられた物



思い出した
ボクの探し物
過去のボクが
残してくれた
今のボクへの「願い事」
それを
叶えてくれるのは……
タイム
カプセル？
いいのかよ
まだ願い
残ってるだろ
うん
でも
今のボクは
2つ叶えて
もらったから
もう十分
だから
最後の
1つは
未来の自分に
未来の
自分に
未来のボクへ——…
ザく…



見つけなきゃ
早く
あゆ……
……
探し物
そこに埋まってるのか？
……うん
きゅ
分かった
俺も手伝う
人手は多い方がいいだろ
す。
！
祐一君……



絶対見つけるぞ
うん……
早く
あれを見つけて
それで願いを――…
――…!
願い事……って
何……
願うつもりなんだろ……ボク
何もないくせに
祐一君……ボク
んー?
何か言ったか?あゆ
せっかく再会出来たのに


ここにいちゃダメみたいだよ……
ボクはもう……
……あ……
ゆ？
え……
あゆ……？
あゆ!?
思い出した
全部
7年前のあの日


いつもと同じ
夕日の中
いつも通り
ボクは木の上から
大好きな
祐一君と　この町を
見下ろして
祐一君が
それを見上げて
ただ
少し強い風が　吹いただけ
それだけで
頭を襲う
ひどい痛みと
『あゆ!!』
雪の冷たさの中
祐一君が
泣きながら
ボクを見ていた
ボクを呼んでた
やがて
冷たさも痛みも
感じなくなって


ボクの時間は止まった
それなのに また
来てしまった
祐一君に会いたい
一緒にいたい
全部 ボクのワガママで
あの日
ボクのために
泣いてくれた
祐一君を
自分勝手に
また巻き込んで
……このままだと
祐一君は きっと
自分の事を
責めてしまう
ボクの事を
救えなかったって
自分が無力だったって
そう思ってしまう


祐一君は 本当に
優しいから
そんなのは 絶対に だめ
祐一君は
悪くない
全部 ボクの
せいなんだよ
ごめんね
本当に
ごめんなさい
もう これ以上
ボクなんかのために
傷つかなくていいんだよ……


祐一君……
……思い出したよ
俺も
全部
……うん


まったく
いきなり消えやがってびっくりさせんなよな――っつの
あはは
ごめんね
あの時はボクもちょっと混乱してたから
――…ほら
忘れモン
と
お前の探し物
これだろ？
……見つけてくれたんだ
おうよ
すっげぇ苦労したんだからな
感謝しろよ？


うん
ありがとう…！
よっし じゃあ 言えよ 願い事
残ってるだろ？ 最後の1つ
え……
言えよ 叶えてやるから
それなら とっておきのお願いしちゃおっかな——っ
わあ わあ
あ 出来る範囲でな？
——……じゃあ


ボクの事


忘れてください
最初から ボクなんて いなかったって
ボクの存在は
そう
思って——…


馬鹿野郎ッ
叶えられるのは
祐一君を悲しませてしまうから
俺に出来る事だけって言っただろ……！
俺があゆの事忘れるなんて
出来ると思うのかよ！
祐一君……！
ごめんなさ……っ
ホントは離れたくない
もっと祐一君の側にいたい
ごめんなさい ごめんなさい
一緒にいたいよぉ……！
あゆ……


……でも
ボクは もうすぐ 消えるのに
こんな お願い いじわる……だね
祐一君が
そんな事……
ボクを 忘れないで くれるなら
せめて
ねえ…… 祐一君 ボクの身体 まだ あったかいかなぁ…
当たり前だ
これ以上 悲しまないように


最後は笑顔で
良かった……
ー…
あゆ……

——……祐一君

ボクは

祐一君と会えて

また一緒に

過ごす事が出来て

とても

とても

幸せでした

だから

祐一君

これからは

自分の事を考えて

どうか

幸せになって

下さい

それがボクの

最後の願いです




夢を見ている
幸せな夢
大好きな学校へ行って
大好きな祐一君と会って
大好きなたい焼きを
一緒に食べて
ずっと続いて
欲しかった
とてもとても
幸せな夢
でも
もう――…
待てよ あゆ



え……
祐一君――…
祐一君
怒ってる……
当たり前だよ
いっぱい
ひどい事
しちゃったもん……
ご……
ごめんなさ…
嘘かよ？


離れたくないって…
俺の側にいたいって
一緒にいたいって言ったじゃんか
あれ全部嘘なのかよぉっ!?
っ……
うそじゃ……ないよ……



嘘じゃないよ
離れたくないよ
側にいたいよ
一緒にいたいよ
全部 ボクのホントの気持ちだよ!!
だったら
目を覚ませよ!
その気持ちがホントだって言うなら
現実に来い!
夢を終わらせるんだ
自分の足で!
夢を


終わらせる――…





誰か
いる――…
あゆ……
あゆ……
俺がわかるか？
ぎゅ…
ガタ…


祐一君……
おは…よう
寝過ぎだっつの
寝坊も
いいとこだぞ
……バカ
ぐすっ
身体の重さが
夢の終わりを告げる
ぎゅ…
ねぇ…
祐一君
夢から覚めたボクは
満足に身体を動かす事もできない
ボクの手
あったかいかな……？
これから待つている現実は
大変な事も
たくさんあるかも
しれないけど


当たり前だ
この手の温かさが教えてくれる
また
並んで歩く事の出来る日が来る
それはきっと
遠くない未来に
おわり



ありがとうございました！

コミックス第2巻、お買い上げ頂き
誠にありがとうございます。霜月絹鶯です。

Kanonコミカライズのお仕事を頂き、
緊張しまくりながらも連載を始め、
気が付けば最終回でした。
あっという間でした。

自分の好きな仕事で、Kanonという
大好きで愛して止まない作品に
関わる事が出来、本当に幸せでした。
今は只それだけで！

本当にありがとうございました！

霜月 絹鶯

本編に出番ほぼナシなので
ここで名雪をば…！

ありがとうございました
→担当の丹羽さん、
久瀬たつやさん、
樋上いたる様、
Keyの皆々様、

Kadokawa Comics Dragon Jr.

角川コミックス ドラゴンJr.

Kanon ホントの想いは笑顔の向こう側に 2

原作
Key

作画
霜月絹鯊

2007年12月 9 日初版発行

発行者／山下直久

発行／富士見書房
〒102-8144 東京都千代田区富士見1-12-14　(03)3238-8591(編集)

発売／角川グループパブリッシング
〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3　(03)3238-8521(営業)

カバー・本文デザイン／伸童舎

印刷／暁印刷　製本／BBC

初出／ドラゴンエイジPure(富士見書房刊) vol.4〜6

ISBN978-4-04-712521-6　C0979

9784047125216
1920979005204

ISBN978-4-04-712521-6
C0979 ¥520E

定価:本体520円(税別)

発行:富士見書房
発売:角川グループパブリッシング

「ボクのこと忘れないでください」

それは遠い昔の記憶。仲の良い男の子とボクとの間で交わした約束。
そして7年の時が過ぎ、ボクらは再び出会ったんだ。
夕焼けに赤く染まる商店街で。たい焼きを小脇に抱えて。たい焼き屋のおじさんに追いかけられながら……。

雪の街を舞台に、1人の少年と5人の少女たちが紡ぐ小さな奇跡の物語。
ヒロインたちの視点で描く新たな
『Ｋａｎｏｎ』待望の第2巻！

